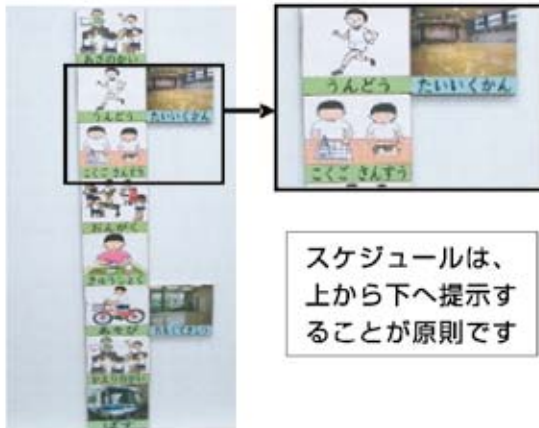




児童・生徒に分かりやすい「構造化」のアイデア 時間の構造化のアイデア (1)

1日の活動(授業)の提示の例



スケジュールは、
上から下へ提示す
ることが原則です

1日の活動の内容を示すスケジュールは、
上から下へ並べて提示します。

小学部では、活動の内容を示す具体的な
絵カードを使い、理解が進んできたところで、
よりシンボル化した絵カードを使用してい
くことも考えられます。

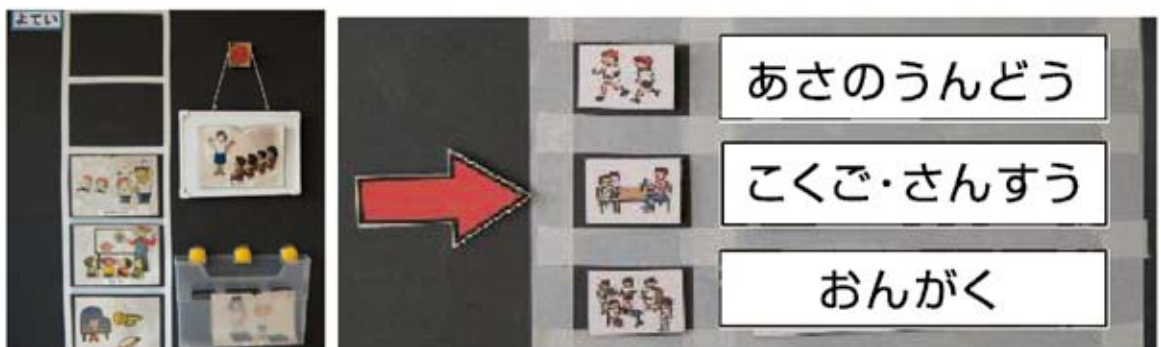
児童・生徒の理解に応じて、小学部と中
学部で基本的なカードのスタイルは共通化
していきます。児童・生徒の理解度に合せて、
「実物」「線画」「シンボル」「イラスト」
「文字」などを併用して提示します。

授業を行う場所を示すカードは、スケジ
ュールの右側に提示します。



今、行っている活動を明確にする工夫

スケジュールの中で、今やっていることを明確にするために、カードを取り出して提示します。
活動が終わったら、決めた箱（フィニッシュボックス）にに入れて、終わりを明確にします。



時間の構造化とは、学習する内容を視覚的に示していくことです。自閉症の児童・生徒が見通しをもち、主体的に活動できるようにするためには、1日の活動内容について視覚的に提示することが大切です。今の時間に、何をするのか、次に何をするのか、または1日、1週間という期間で何をするのかを視覚的に提示するなどの支援が大切です。特にスケジュールは、将来的に自分で作成し、管理できるようになることを視野にいれた支援を考えていきましょう。

1 週間の活動(給食)の提示の例



給食の献立を1週間分掲示し、週の見通しをもたせることにした事例です。

料理の写真は、実際に給食で出たものを撮影して用います。使ったデータは保存しておくとう便利です。

カード作成の際、給食の食事を1品ずつの写真にしておくこと、給食のメニューに合わせて組み合わせることができます。

給食メニューの掲示を、児童・生徒の係活動とすることもできます。



1 カ月のカレンダーの提示の例

1カ月のスケジュールを見通すために、カレンダーの活用をした事例です。

曜日の色を変えることで、下校時刻の違いを示してあります。

行事や、体重測定といった、特別な活動があるときは明記してあります(児童・生徒の理解度に合わせて絵やシンボルなどのシールで貼ることもよいでしょう)。

その日が終わったら、「おわり」シールや「○」シールなどを貼っていきます。





時間の構造化のアイデア (2)

スケジュールカードの工夫



カードを入れ替えられる。

スケジュールカードの工夫

同じ教科でも、
単元によって活動
内容が違ふ。



活動内容も、
分かりやすく！

各教科や領域名のカードをその単元の活動と対応させるために、イラストや写真を入れ替え可能な形にします。

これによって活動内容がより具体的に分かるようになります。

写真の例では、名刺サイズのカードケースを両面テープで貼り付けています。

身近な機器を使った提示



教室外では小さなカードによる視覚支援が一般的ですが、静止画を取り込める携帯用の電子機器等*の利用も有効です。

あらかじめ写真やイラストをメモリーに入れておき、必要に応じて画面を提示します。この方法の利点として、カードをぶら下げて歩かなくても良いことと、検索が簡単であることがあげられます。

児童・生徒によっては自分で操作することも指導します。

液晶画面は、屋外等の明るい場所では反射して見にくくなるため、見えやすくする工夫が必要です。

*デジタルカメラ等でも可能です。

約束カードの提示



休み時間に、教室以外のプレールーム等の場所で過ごしている児童・生徒に、「2時40分には教室に戻る」ことを示すカードです。

板目紙に油性フェルトペンで数字を書き、見やすいところに掲示しています。



時間の構造化では、児童・生徒の理解度に合わせて、活動の予定について、学習する内容を視覚的に示していくことで、見通しをもたせるように工夫していくことが必要です。

スケジュールカードの個別化

一つのスケジュールを教室に掲示するだけでは、児童・生徒一人一人に異なる係活動等を示すことが難しい場合があります。

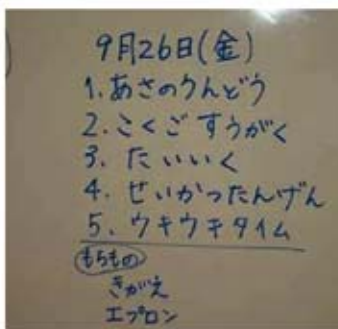
児童・生徒一人一人の実態に応じて、係活動や遊びなど、細かいスケジュールも示すと見通しをもちやすく、主体的な活動を促すことができます。



明日の予定の指導

下校前の「日常生活の指導」で、教師がホワイトボードに書いた「明日の予定」や「持ち物」をメモします。

予定を記入するためのプリントや、小型のノートに記入するなど、児童・生徒の実態に応じて工夫しています。



係活動につながる指導

給食献立係は、献立カードをホルダーからはずし、ホワイトボードに掲示します。この係の仕事は、カードを見て今日のメニューを板書することにも発展させることができます。

この生徒の場合、朝の会で「今日の給食」の発表までが一連の係活動になっています。自分の好きな活動を基本にして、「いつごろ」「なにが」あるのかという先の見通しをもてるようになってきました。



発表する際に使用する給食のメニュー表



児童・生徒に分かりやすい「構造化」のアイデア 活動の構造化のアイデア（1）

学習の仕組み作り(ワークシステム)

課題の内容や量を、児童・生徒の理解に合わせて視覚的に提示していきます。



これから始める課題は、児童・生徒の左側に用意しておき、終わった課題は児童・生徒が右側に置けるようにします。

左側にある課題がなくなれば、その日の課題が終わったことを、児童・生徒が視覚的に理解できます。



右側に置いてある教材ラックの上の段から順番に課題を行います。

一番下の段の課題が終わったら、その日の課題は終わりです。



取り組む順番が示されたプリント（手順書）に沿って、離れた場所にある棚から、その日に取り組む課題教材（プリント等）を出してきて学習に取り組みます。

- ・手元にすべて課題を並べると、かえって気が散ってしまう児童・生徒もいます。ラックやかごを活用するなど、一人一人に合わせた学習の仕組み（ワークシステム）を工夫しましょう。
- ・上記のようなワークシステムの理解がまだ難しい児童・生徒には、最後の課題を決めておいて「〇〇をやったら終わり」という見通しが立てられるように促していきます。
- ・完成させた（終わりになった）課題は、ていねいにしまうことも教えましょう。卒業後の働く場において、完成品をていねいに扱えるようになることにもつながります。

活動の構造化とは、活動する順番、作業の手順を分かりやすくすることです。自閉症の児童・生徒にとって、これから取り組む課題は、どのような手順ややり方で行われるのか、どうなると終わりになるのかを、あらかじめ見通せるような仕組みになっていることが大切です。「活動の構造化」を行って、自閉症の児童・生徒が主体的に課題に取り組める環境を整えていきましょう。

手順書(マニュアル)

個々の課題の具体的なやり方を視覚的に提示することで、児童・生徒が主体的に課題に取り組むようにします。



封筒への封入作業の課題の例です。
 左から順に取っていき、最後は右端の封筒に入れるようにしてあります。
 マニュアルによる提示での理解が難しい児童・生徒には、実物を用いた提示が効果的です。



図画工作における手順の提示例です。
 一度にすべての手順を提示すると、かえって混乱してしまう児童・生徒に対しては、工程や順番ごとにカードを提示して、今、何を行えばよいのかをその都度理解できるように促がします。

こなをまぜる

1		てを あらう 10かい
2		かおを あらう 10かい
3		うがい 3かい

	むしぱん
1	こなをいれる
2	さとうをいれる
3	たまごをいれる
4	かきまぜる

まとめて一連のやり方を示す方法です。(左：手洗い、右：調理)

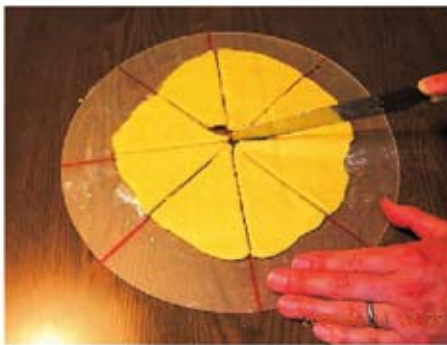
- ・ 1工程ごとに示した方が分かりやすい場合と、最初から一連の手順を示した方が分かりやすい場合があります。児童・生徒の理解度に合わせて提示の仕方を一人一人工夫しましょう。
- ・ 実物、絵(イラスト)、写真など何を提示するかによっても、児童・生徒の理解の仕方が異なってきます。児童・生徒一人一人の実態に合わせて理解しやすいものを選ぶようにしましょう。
- ・ 手順書の大きさも大切な要素です。児童・生徒のすぐ目の前で提示するのか、それとも離れた場所から提示するのか、使い方に合わせて大きさを工夫しましょう。



児童・生徒に分かりやすい「構造化」のアイデア 活動の構造化のアイデア (2)

教材・教具の工夫

活動する内容について言葉で説明するだけでなく、教材・教具を工夫するなどして、活動する内容や手順を理解できるようにしましょう。



調理のパン(クロワッサン)作りの例です。パン生地を8等分に切り分ける工程で、半透明のまな板に、赤線を引きました。これにより、児童・生徒には線に合わせて切ればよいことが分かり、一人で切れるようになりました。



マット運動(前転)の例です。児童・生徒が、手や頭をつく位置を感覚的につかむことが難しかったため、ゴムのシートをおいて、場所を示しました。

手や頭をつく位置が決まることによって、フォームを徐々に身に付け一人で前転できるようになりました。



音楽(キーボード)の例です。楽譜や文字を読むことが難しい児童・生徒も、キーボードのけん盤にシールを貼り、カードとけん盤の色を合わせることで弾けるようになりました。



中学部における作業学習(清掃)の例です。床を掃く→一歩進むの繰り返しの活動ですが、適切に「一歩進む」ことが難しかったため、床に足を進める位置を示しました。

少しずつマーキングを小さくしていったら、最後は一人で適切に進みながら掃けるようになりました。

活動に見通しをもたせるために、教材・教具を工夫したり、コミュニケーションを図る視覚的支援の仕方を工夫したりすることも大切です。

コミュニケーションを図る教材・教具の工夫

自閉症の多くの児童・生徒は、言葉でのやりとりが苦手です。コミュニケーションの仕方についても教材を工夫して支援していくことが大切です。また、児童・生徒の理解の進み具合に応じて、コミュニケーションを図る視覚的支援方法を段階的に減らしていく場合には、児童・生徒の負担を考慮していくことが重要です。



遊びの時間に、やりたい遊びを選択できるようにしました。児童・生徒によっては、写真による提示の方が、具体物のイメージができ、選択がしやすくなります。



色々な場所でも、小さな絵カードを使ってコミュニケーションできるように、持ち運べるようにしました。

マジックテープが台紙に付いていて、カードをはがしてコミュニケーションをする時に使えるようにしてあります。



係仕事の評価ボードです。係の仕事が終わったら、教師が○の磁石を渡し、できたことを評価します。「よくできたね」という言葉とともに、○の磁石があると、その場に形として残るので、児童・生徒は、確かな達成感や充実感を味わうことができます。

活動の構造化はどうして必要？

自閉症の児童・生徒の多くは他者とのコミュニケーションが苦手です。特に話し言葉の表出や理解が苦手なので、教師がこれから取り組むことを言葉で説明しても、うまく伝わらない場合があります。そのため、ワークシステムやマニュアルなどを整えていくことにより、児童・生徒が取り組むべき作業工程に見通しをもちやすくすることが大切です。

教材・教具を整えて、どのように取り組んだらよいかを具体的に示していきます。